

大阪大学における耐震化の状況について



令和3年10月

学校施設については、学校建築構造設計指針[文教施設整備技術研究会]に基づき、**Is値0.7以上**を確保することとしている。

第4次国立大学法人等施設整備5か年計画（平成28年度～32年度）[文部科学省]においても、教育研究活動を支える基盤として、安全・安心な教育研究環境を確保するため、耐震対策、老朽施設の改善整備により、国際的にも信頼性の高い施設基盤の整備を推進していくこととしている。

■耐震性についての解説

Is値（構造耐震指標）

建物の構造的な耐震性能を評価する指標。Is値が大きいほど耐震性が高い。

S56年以前の建物

新耐震設計法（昭和56年施行）前の基準による建物であり、3階以上かつ1,000㎡以上の学校施設については耐震診断を実施し、必要に応じて耐震補強を行う必要がある。

S57年以降の建物

新耐震設計法（昭和56年施行）による建物であり、耐震性が確保されている。

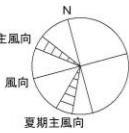
小規模建物等

倉庫・車庫等の小規模建物及び取り壊し予定建物等。
※耐震化率の算出の際には除外

■耐震化率

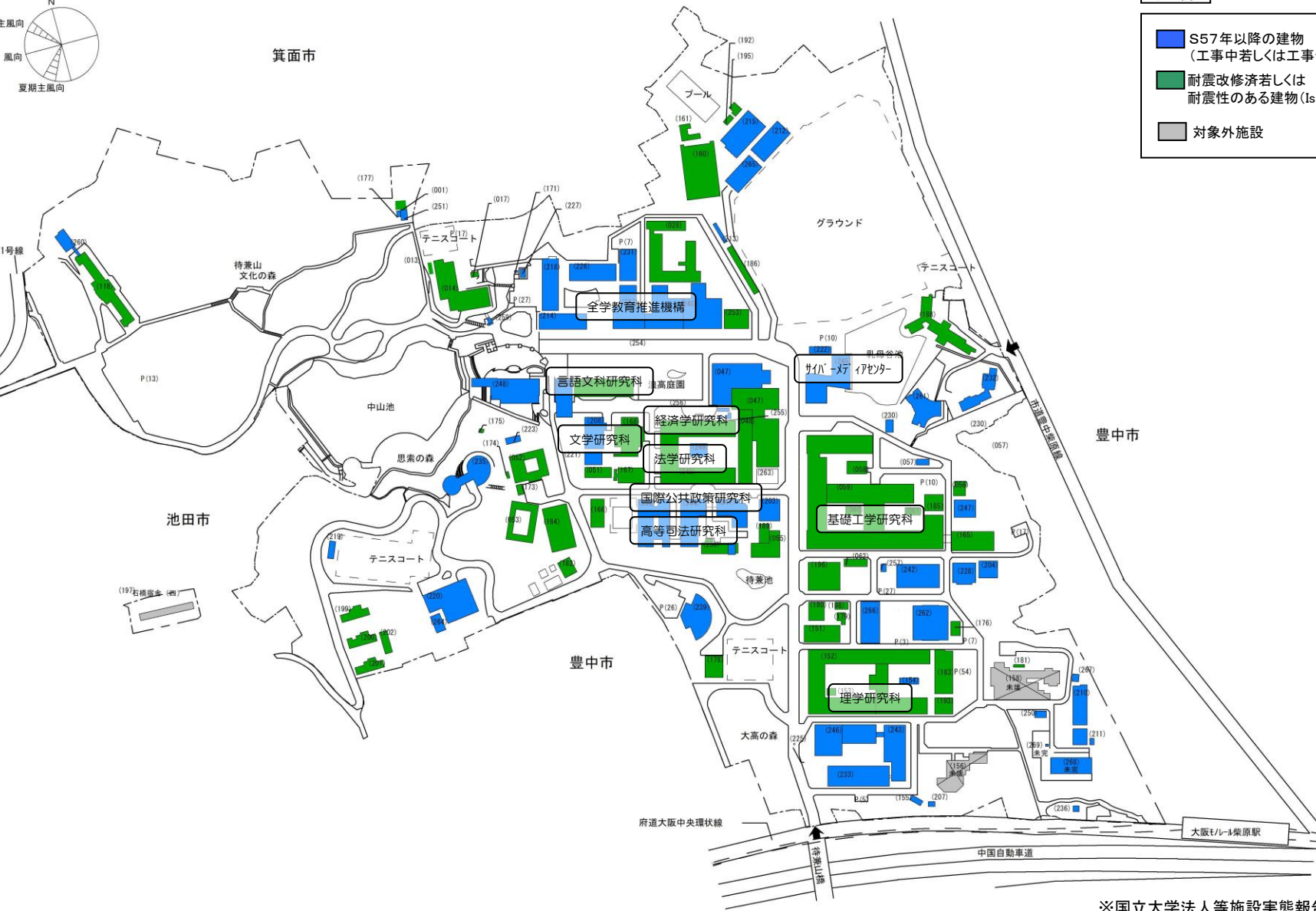
2021年度10月現在の大阪大学における耐震化率は、**100%**である。

豊中団地 耐震化状況図



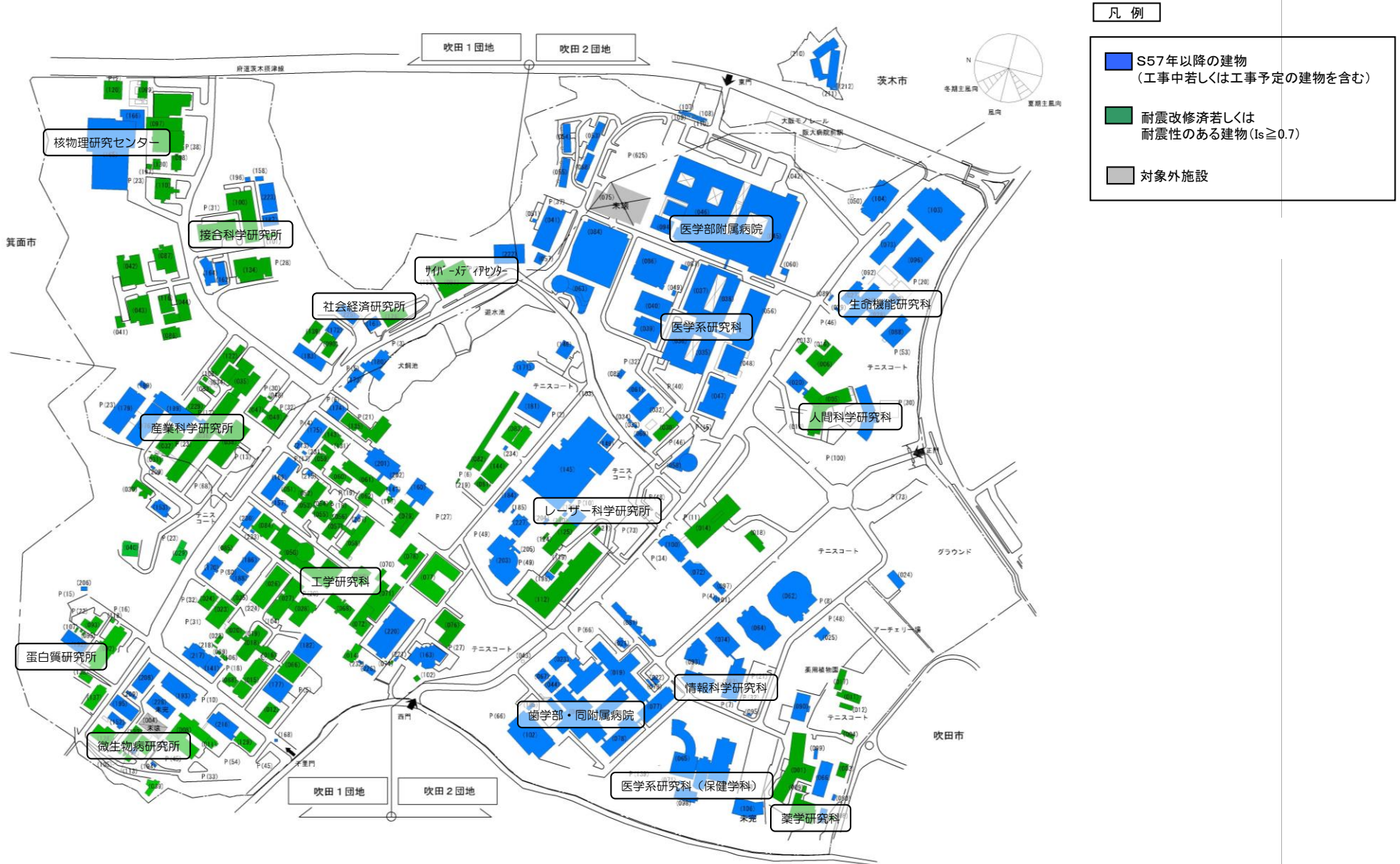
凡例

- S57年以降の建物
(工事中若しくは工事予定の建物を含む)
- 耐震改修若しくは耐震性のある建物 ($I_s \geq 0.7$)
- 対象外施設



※国立大学法人等施設実態報告 (2021年5月1日現在) より作成

吹田1・2団地 耐震化状況図



※国立大学法人等施設実態報告 (2021年5月1日現在) より作成



凡例

- S57年以降の建物
(工事中若しくは工事予定の建物を含む)
- 耐震改修済若しくは
耐震性のある建物 ($I_s \geq 0.7$)

